



松井学童

松井学童クラブでは、六年生十一名の卒所式を三月十三日に行いました。

この学年が入所したときは過去最高の七十二名の在籍数で、うち一年生は二十五名でした。少人数から大規模になり、まとめるのが難しい時期でもありましたが、人数が多いため集団遊びや縦の繋がりを大事にしてきました。

学年が上がるにつれ六年生同士の絆も深まり男女が仲良くまとまりのある学年に成長していききました。遊びでも下の学年の子どもたちをリードしてくれ、優しく元気な六年



生たちは、みんなの憧れの存在です。

そんな頼りになる六年生の卒所式を無事に行えたことを嬉しく思います。指導員からは卒所証書と認定証を読み上げ、在校生からは記念品の贈呈（みんなからのメッセージ、花束など）と共に感謝の気持ちを伝えてもらいました。記念品のしゃもじは、田村指導員が焼きゴテで一人ひとりの名前を入れたもので、卒所時にもらうのを楽しみにしてい

上新井学童

今年度六年生男子三名が卒所します。学童のみんなと活動をしたり、生活を考えて作っていったりすることを高

いる学年。学童キャンプや高



る子もいます。六年生からは、みんなへ「今までありがとうございました。とても楽しい六年間でした。残りの学童生活を楽しんで下さい」とメッセージを残してくれました。卒所式の後、六年生みんながピザを食べ、楽しく過ごしました。卒所は寂しいですが、これからも様々なことにチャレンジして頑張ってもらいたいと思います。

学年取り組み等、様々な学童行事を楽しく楽しみにしていたことだと思っています。

卒所をする保護者の方から素敵なメッセージの一部をご紹介します。

「コロナの中でも出来る範囲で楽しみを考えて下さり、有難いなと感じます。また、学年成長に合わせた役割や責任も適度に与えて下さっていたのでやりがいを感じる事に繋がったと思います。」

「学童は第二の我が家の様な存在でした。どんな時でも子どもを信じ寄り添い、支えてくれた支援員さん。心が素直に育ってくれたのも支援員さんのおかげです。子ども成長と一緒に喜んでくれる支援員さんや学童が大好きです。感謝の気持ちでいっぱいでした。」

「我が家は三兄弟、三人とも六年間お世話になりました。この春、一番下の子が学童を巣立ちます。込み上げるものを抑えるのに必死です。長かったようで短かった十一年間でした。印象深かったことは長男が一年生の時、習い事のプールバスに遅れて乗れなかった時、バスを追いかけ走ってくれた六年生達。ベーゴマや缶ゴマの回し方を教えてくれて一緒に本気で熱く勝負をしてくれた支援員さん達。三男が六年生の修学旅行振替休日では、彼らの自主性を尊重し忘れられない思い出の一日を作ってくれました。常に心の拠り所として、丈夫に育てて頂きました。そして、子どもを介して繋がったお父さんお母さんたちも宝物です。本当にありがとうございました。」

つくってあそぼうっこどもまつり
西地区合同行事（林・宮前・若狭・三ヶ島学童クラブ）



今年度で三十三回目を迎える行事です。前号では子ども実行員会の様子を紹介させていただきましたが、今回はオンライン開催にむけて準備を進める様子、工作を教えあう様子などを紹介します。



宮前学童

宮前学童では、最高学年の四年生から実行委員を募り、三名の子が「やりたい！」と立候補してくれました。工作を決める会議の時は、たくさん候補を出してくれて、やる気いっぱい三人！



若狭学童

若狭学童クラブでは、五、六年生が中心となり実行委員を行いました。オンライン会議前の準備では工作紹介の練習を念入りにしていました。工作は「もにゅもにゅさん」「にょきにょきとのさま」「コッソコアート」



動画撮影では、緊張した面持ちでしたが、台本なしのアドリブで言葉を入れたり、声の大きさを考えたり、こつした方が見やすい等考えたり、アイデアを出しながら撮影していました。以下、一人一言感想をもらいました。
みおりちゃん「色合いを工夫しました。動画をとるのが緊張しました。」けんたくん「緊張したけど頑張れてよかったです。たくさんの人に作ってほしいです。」こまちちゃん

ん「細かなところが難しかったけど、色塗りを丁寧にやりました。」
完成した動画を、恥ずかしそうにしなからもしっかり確認している様子が、微笑ましかったです。つくってあそぼうの



取り組みを通して、四年生の成長を感じました。

とネーミングを考える時に効果音を沢山入れた方が面白い！とナイスアイデアを出してくれました。

「しっかりと説明が解るような動画を作った。」などそれぞれが動画づくりで工夫したり、達成感を持って「つくってあそぼう」に参加できたことが良かったです。

実行委員を終えた子ども達は「実行委員をやって楽しかった。」「工作を楽しく作るこ

とができた。」「動画撮影、緊張した。」「間違えるんじゃないかと思った。」「相手に見やすいように一つ一つカメラに近づける工夫をした。」



学童この一年

伸栄学童

写真のあそびは「十字おに」というあそびです。「何か楽しいあそび教えて！」県民の日に子どもからかけられた言葉でした。

伸栄には、所沢市内では珍しく子ども達が走り回れるくらいの自前の庭があり、そこを使ってのあそびが多く行われています。一度遊びが始まると、「何やってるの?」「一緒にやる!」「遊び方教



子どもたちの声

「えー!」など、たくさん子ども達が遊びに参加してきます。この日は出席が少なく、手持無沙汰だった子ども達。「じゃあ、十字おにを教えるよ」と指導員が話し、庭にフインカーで四つのマスを書きました。「どうやってやるの?」の声に、やりたい子ども達を集めて、ルールの説明をしてやってみました。やり方を覚えた子ども達は次の日からは、「十字おにやりたい子集まっ

伸栄では、たくさんのおあそびを知ることによって仲間関係を広げたり、みんなが同じルールを知ることであそびを教えたりもでき、縦の関係性も広げることができるとはいいですね。ただ、高学年がいらない学童なので、最初は指導員が意識的にあそびを子ども達に伝え、子どもどうしをつなげる役割をしています。そこからあそびの輪が広がり、一つのあそびに二

て!」と声をかけ、初めて参加する子ども達に説明をして多くの子ども達が参加して楽しんでいました。

何日も庭で続く中、雨で庭が使えなかった時、「今日は庭で遊べないから」と残念そうな声があり、急遽ホールにテープを張って簡易的に十字おにのマスを作りました。庭と違って大きなマスは作れませんでした。狭い場所・ホールを独占しないためのルールなども自分たちで決め、今では庭で行うよりもホールでの遊びとして定着しています。

十人以上の子ども達が参加することもあります。あそびのルールやみんなが楽しめるにはどうしたらいいかを、子どもたちといっしょに考えることで、子どもたちにも考える力がついてくるのいいなと思っています。

伸栄学童指導員 大河原 恵

シリーズ前ちゃんの現地レポート②

子「ねえ、時間計ってくれる!」前「いいよ。一、二、三、四、五、六、七、八、九、十秒。はいOK!」子「次はこれね。…あっ!…! : もう一回最初からだあ… : やるから計って!」

この会話は上新井学童クラブでの一場面。コマ検定期間の二月、チャレンジする子ども達。あと一歩のところまで悔しい思いをしながらも、気持ちを切り替えて再度最初からチャレンジする子ども達の姿は本当に素敵でした。この時浮かんでは「遊びは子どもの主食です」。これは早稲田大学名誉教授、増山均さんの講演で語られたフレーズです。以下抜粋します。

「昔から『よく遊び、よく学べ』と言われてきましたが、実際は『遊び』は後回しにされ、『学び』が主役で、『遊び』は『学び』という目的のための手段のように扱われています。しかし、本当は『遊び』が主役であり、子どもの健康な育ちのために『遊び』は子どもの主食なのです。面白いこと、楽しいこと、心地

よいことを追求し、心・魂を揺さぶり突き動かす力、その営みがぎゅーと詰まっているもの、それが遊びです。子ども時代に夢中になって遊びこみ、遊びることが、大人になっても高齢者になっても、元気に生きる人生のエネルギーの核を作ります。だから遊びは、子どもの主食なのです。」 上新井学童の実践はまさに、主食そのものです。外遊び、室内遊び、伝承遊び等、様々な遊びを紹介し遊びの幅を広げています。特に伝承遊びは「検定」を通じて技の習得を目的にし、その過程で子ども達にチャレンジすることの面白さや、繰り返し練習することで獲得できる達成感等を体験できる機会を作っているのだと思います。 遊びを最終的に取捨選択するのは子どもたちですが、今日も様々なクラブの保育の中で、主食(あそび)をたくさん子どもたちに伝えていくことと思います。



小西 愛子 指導員

山口学童クラブ

クラブでは子ども達に「あいちゃん」と呼ばれています。子ども達からは、ちょっと抜けている人、と思われているのではないのでしょうか。話しやすい人、と思われていると嬉しいです。と話す小西指導員です。

やさしい、のんびり、声をかけやすい、なんでも話しやすい、いたらうれしい存在なんだとか。



指導員になって良かったことは、子ども達の成長を応援しながら、自分も一緒に楽しい時間を過ごせることです。保護者の方といろいろお話することも楽しいです。たくさんのお会いや経験をさせていただいています。日頃大切にしていることは、子ども達の話をよく聞いて、しっかり感情を受け止めてあげることです。もし何か困りごとや悩み事があったら一緒に考え、みんなの心の拠り所になればいいなと思っています。あと、決めつけないこと、押し付けないこと、名前をたくさん呼んであげること、笑顔でいることを意識しています。

子どもの頃は、勉強もあそびも大好き、好奇心旺盛で興味を持ったら何事もチャレンジしてみる子だったと思います。学生時代は英語が好きだったので、海外で暮らしてみたいという夢を叶えるため、お金を貯めて二十代の頃に一年間ワーキングホリデーでニュージーランドに滞在しました。いろんな出会いや経験があり、視野が広がって考え方がおおらかになった気がします。

最近、美しい自然や美味しいものを求めてカメルを持って、お出かけに行くことが好きです。デパ地下散策も好きです。他に好きなことは、子どもの頃から親しんできたピアノと、あと、コロナ禍のステイホームの時にはまったK-POPをきっかけに韓国語学習にも取り組んでいます。



次はのびる

この数年間コロナ禍で色々といろんなことを経験しています。最近、美しい自然や美味しいものを求めてカメルを持って、お出かけに行くことが好きです。デパ地下散策も好きです。他に好きなことは、子どもの頃から親しんできたピアノと、あと、コロナ禍のステイホームの時にはまったK-POPをきっかけに韓国語学習にも取り組んでいます。

編集後記

暖かい日が続き、春の訪れを感じますね。

今号は「卒業おめでとう」特集でした。六年間通えるクラブがあることは、子どもや保護者にとって大切なことだと思っています。学童で得た経験やかけがえない仲間の存在はきっとこれからの育ちの支えになっていくことでしょう。

「つくってあそぼう」の取り組みではコロナ禍ならではのオンライン会議や交流を行い、クラブを超えて作るこの面白さつつながることの大切さを感じることができました。

今年度は、市民フェスティバルが復活したことは個人的にもうれしかったです。今後もう少しコロナ前のような活動や自然な生活が待っていると思ってい心ワクワクしてきますね。

春は別れの季節ですが、出会いの季節でもあります。皆様にとって良き出会いがありますように。

(坂本勉)

学童クラブの会のHPはこちらから！

